

## だいず「あやこがね」の栽培特性

古川農業試験場

### 1 取り上げた理由

「あやこがね」は中生の良質安定多収品種として平成11年に奨励品種に採用された。普及に移す技術第74号普及技術「大豆奨励品種東山168号」では利活用の留意点として「栽培法はタンレイに準じる」としたが、栽培試験を継続するなかで「タンレイ」とは一部異なる栽培特性が認められたので、安定栽培に向けて参考資料とする。

### 2 参考資料

1) 「あやこがね」は「タンレイ」より蔓化・倒伏しやすい(表2)。

2) 蔓化・倒伏を軽減し、収量・品質を確保する栽培の目安は以下のとおりである。

a 「タンレイ」より株間をやや広くし、栽植本数を少なくする。5月下旬～6月上旬播種では約11,000～13,000本/10a、6月中旬～6月下旬播種では約13,000～17,000本/10aとする。また、7月上旬播種では最下着莢高を高めるため約26,000本/10aとする(図1,表3)。

b 転換初年目の肥沃なほ場では基肥量を「タンレイ」慣行量の半量程度とする(図2)。

表1 あやこがねの播種様式

播種時期	播種量 (kg/10a)	株間 (cm)	栽植本数 (本/10a)
5月下旬～6月上旬 (標準)	3.5～4.5	20～25	11,000～13,000
6月中旬～6月下旬 (大麦後)	4.5～6.0	15～20	13,000～17,000
7月上旬 (小麦後)	9.0	10	26,000

注)播種量は百粒重33gで試算した。株間は畦幅を75cmとした場合の目安である。

### 3 利活用の留意点

1) 7月上旬播種は倒伏が増加するので、栽植本数は約26,000本/10aを上回らないようにする。

2) 播種量は使用する種子の百粒重により変動する。

3) その他の管理は「タンレイ」に準じる。

(問い合わせ先：古川農業試験場水田利用部 電話 0229-26-5106)

4 背景となった主要な試験研究

1) 研究課題名及び研究期間

多彩な転作作物の選定と有望系統の安定栽培技術の確立 平成11～13年度

2) 参考データ

表2 『あやこがね』と『タンレイ』の生育比較 (1999～2001年、古試 農セ計7試験平均)

	あやこがね	タンレイ
主茎長(cm)	75.9	75.3
蔓化程度(0-5)	1.9	0.4
倒伏程度(0-5)	1.5	0.5

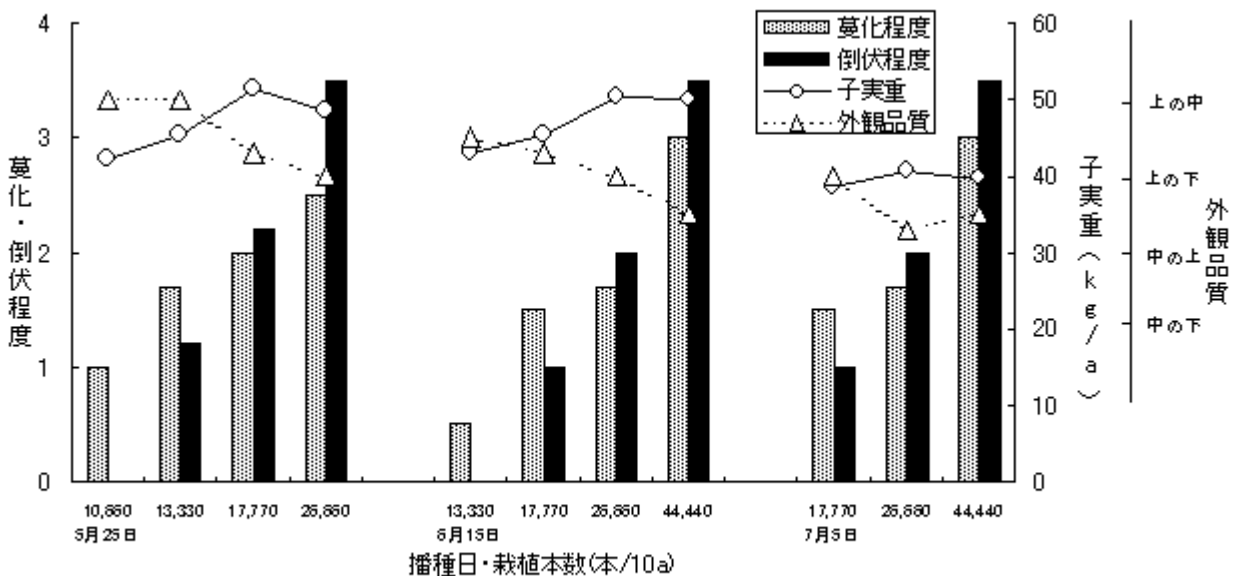


図1 播種日別栽植本数と蔓化・倒伏程度及び収量・品質との関係(1999～2001年平均)

表3 栽植密度と最下着莢高の関係 (1999～2001年平均)

播種日	栽植本数 (本/10a)	最下着莢高 (cm)
5月25日	10,660	19.8
	13,330	22.2
	17,770	24.2
	26,660	24.5
6月15日	13,330	19.1
	17,770	22.6
	26,660	25.8
	44,440	24.6
7月5日	17,770	14.5
	26,660	16.3
	44,440	17.8

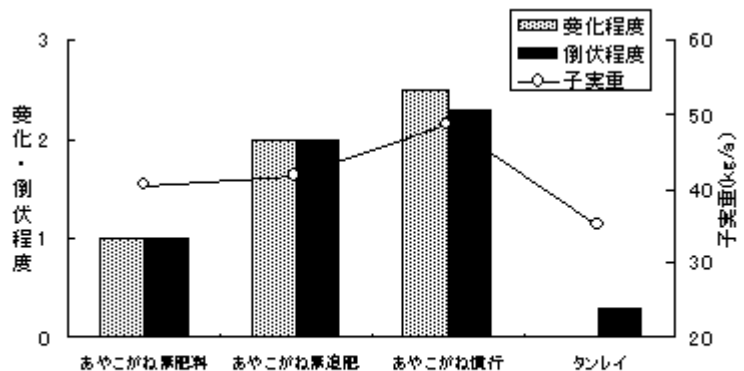


図2 転換初年目ほ場における変化・倒伏程度及び子実重 (2001年 灰色低地土)

3) 発表論文等

なし